

水分不足による疾病を防ごう！

平成24年7月26日
特別養護老人ホーム 伊豆白寿園

施設の概要

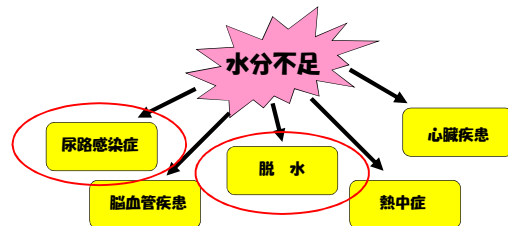
所在地 静岡県田方郡函南町平井750
施設種別 特別養護老人ホーム
開設年月 昭和53年6月
定員数 入所者 70名 ショートステイ 10名
特徴 建物は従来型の施設ですが、3つのユニットに職員を固定したユニット方式によるケアを実践し、利用者との心とこころの触れ合いを重視しております。

テーマ選定理由

- 平成23年4月、「尿路感染症」や「脱水」の診断を受けて、治療や入院を必要とする利用者が多くなる傾向にあった。
- 医師や看護師より、「尿路感染症」や「脱水」を予防する若しくは改善させるためには水分補給と陰部清潔保持が欠かせない等の意見があった。

これまで水分補給については、重要テーマとして取り組んできたが、もう一度水分補給の取り組みについて見直さなければいけないとの意見が出てきた。

水分不足が要因の疾病について



水分不足により、様々な疾病を誘発する中で、私たち伊豆白寿園では、「尿路感染症」と「脱水」に焦点を当てて取り組んでいくことにした。

取り組みの内容

【現状把握】

- H22年9月1日～H23年8月31日（1年間）：
脱水及び尿路感染症の罹患状況調査
- H23年10月：全利用者を対象とした水分摂取状況把握

【これまでの取り組み】

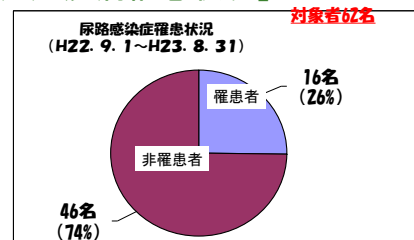
- 食事時の水分摂取の促し
- 嚥下機能低下利用者への水分補給品の見直し
- 水分摂取介助に向けた体制と役割分担の整理

【取り組み内容の確認】

- H23年11月1日～H24年4月30日（5ヶ月間）：
脱水及び尿路感染症の罹患状況の変化の確認
- H24年4月：全利用者を対象とした水分摂取状況把握（H24.4時点）

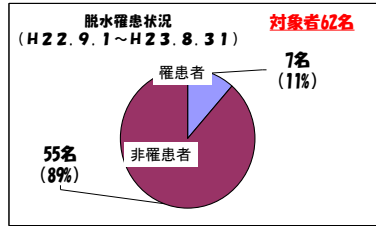
現状把握 その1

(1)「疾病罹患状況」



調査した1年間で、尿路感染症を患った利用者は、およそ4名に1名に及ぶことが分かった。

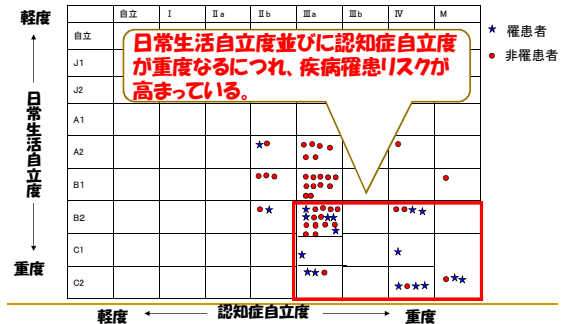
現状把握 その1 (2) 「疾病罹患状況」



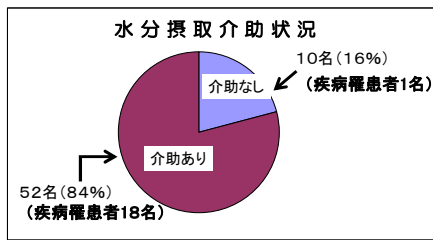
調査した1年間で、脱水を患った利用者は、およそ10名に1名に及ぶことが分かった。

**現状把握その1(1)(2)より
当施設では、尿路感染症と脱水のリスクが高い。**

現状把握 その2 「日常生活自立度及び認知症自立度と 疾病罹患リスクとの関係」



現状把握 その3 「水分要介助状況」



**職員の介護の状況により、
利用者の水分摂取状況が左右されることが想定される。**

現状把握 その4 「水分摂取介助の有無と疾病罹患の関係」

水分摂取介助が不要な利用者：10名（1名が疾病に罹患）

水分摂取介助が必要な利用者：52名（18名が疾病に罹患）

62名中、19名の利用者が尿路感染症や脱水に罹患しましたが、その内18名（95%）は水分摂取が必要な利用者でした。

現状把握の結果

- 調査した1年間で、尿路感染症を患った利用者は16名（26%）脱水は7名（11%）であった。
→**尿路感染症及び脱水のリスクが高い。**
- 全利用者62名の内、52名（84%）は、水分摂取介助を要している。
- 尿路感染症や脱水の罹患患者19名の内、18名（95%）が水分摂取介助を要する利用者である。
→**水分摂取介助のあり方が尿路感染症リスクを軽減する一つの手段である。**
- 日常生活自立度並びに認知症自立度の低い利用者ほど発症している。
→**重度の利用者を優先して疾病罹患リスクの軽減を図る。**

**[現状把握結果より]
(1) 「尿路感染症」と「脱水」の罹患者を減らす対策の策定
(2) 再罹患者の撲滅対策の策定**

取り組み事項と対策

事項	対策
1 食事時の水分摂取の促し	食前の少し早い時間に1杯目のお茶(約150cc)を提供する。 →食後にかけて、お代わりできる方には水分を勧める。
2 嚥下機能低下利用者への水分補給品の見直し	嚥下機能が低下し、水分にトロミをつける必要のある利用者に対し、あらかじめトロミの付いた商品が必要な方に購入させていただく。
3 水分摂取介助に向けた体制と役割分担の整理	フロア待機職員数を増やすように他業務の人員整理を行う。また、各ユニットで水分摂取介助の役割を明確にして確実に対応する。

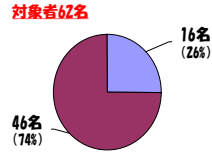
対策実施状況の確認 その1) 「再発状況」

疾病	確認期間		増減
	H22. 9. 1～ H23. 8. 31	H23. 11. 1～ H24. 4. 31	
尿路感染症	12名	8名	▲4名
脱水	6名	2名	▲4名

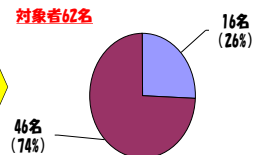
* 対策前後に渡って調査できた利用者15名の罹患者を対象とした。

対策実施状況の確認 その2 (1)「尿路感染症罹患状況の変化」

H22.9.1～H23.8.31



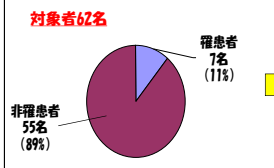
H23.11.1～H24.4.30



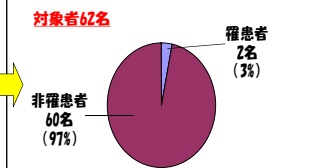
尿路感染症については、特に変化はみられていない。

対策実施状況の確認 その2 (2)「脱水罹患状況の変化」

H22.9.1～H23.8.31



H23.11.1～H24.4.30



脱水に関しては、一定の効果があったと考えられる。

まとめと考察

1. 水分摂取の取り組みの結果、脱水罹患者は減少した。

フロア待機職員数の配置増の工夫による効果を推定している。

利用者の嗜好や特徴に合わせた水分補給を今後も行っていく。

2. 尿路感染症については、効果が少なかった。

排泄支援のあり方を併せて検討していく必要がある。

そこで、利用者の特徴(罹患リスク等)に合わせた排泄支援を展開していく。